

安全データシート

作成日 1999年4月27日
改定日 2019年1月25日
(第18版)

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : ルブ601
製品コード : 1458

会社名 : 株式会社コスモビューティー
住所 : 大阪市此花区島屋6丁目2番82号 ユニバーサル・シティ和幸ビル11階
担当部門 : 研究部
担当者 : 矢野 貴史
電話番号 : (06) 6460-3120
FAX番号 : (06) 6460-0052
推奨用途及び
使用上の制限 : 自動車及び機械部分用の防錆潤滑剤
整理番号 : 1458S18

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性 : エアゾール 区分1
健康に対する有害性 : 急性毒性(経口)
: 急性毒性(経皮)
: 急性毒性(吸入・蒸気)
: 皮膚腐食性/刺激性
: 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性
: 呼吸器感作性
: 皮膚感作性
: 生殖細胞変異原性
: 発がん性
: 生殖毒性
: 特定標的臓器毒性(単回ばく露)
: 特定標的臓器毒性(反復ばく露)
: 吸引性呼吸器有害性 区分1

環境に対する有害性 : 水生環境有害性(急性)
: 水生環境有害性(長期間)
: オゾン層への有害性

※ 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

: 極めて可燃性/引火性の高いエアゾール
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き

〔安全対策〕

- 熱/火花/裸火/高温のものから遠ざけること。-禁煙。
- 裸火または他の着火源に噴霧しないこと。
- 加圧容器: 使用後も含め、穴をあけたり燃やしたりしないこと。

〔応急措置〕

- 飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。
- 無理に吐かせないこと。

〔保管〕

- 施錠して保管すること。
- 日光から遮断し、40℃以上の温度に暴露しないこと。

〔廃棄〕

- 内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。
- エアゾール缶を廃棄する場合は、中身を使い切ってから火気のない屋外で噴射音が消えるまでボタンを押し、ガスを完全に抜くこと。火中に投入すると爆発のおそれがあるので、絶対に焼却しないこと。

3.組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別: 混合物

組成及び含有量

化学名又は一般名	含有率(%)	化管法 ⁽¹⁾	化審法 ⁽²⁾	安衛法 ⁽³⁾	CAS番号
イソパラフィン系溶剤	非公開	—	非公開	—	非公開
潤滑剤	非公開	—	非公開	—	非公開
防錆剤	非公開	—	非公開	—	非公開
LPG(噴射剤)	非公開	—	(9)-1697	—	68476-85-7

(1) 化学物質排出把握管理促進法 官報公示整理番号(平成21年10月1日施行)

(2) 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律 官報公示整理番号

(3) 労働安全衛生法 第57条 施行令第18条第1号別表第9 (名称等を通知すべき危険物及び有害物) 政令番号(平成30年7月1日施行)

—: 該当しない

4.応急措置

吸入した場合

- 使用中に気分が悪くなった場合は、直ちに作業を中止し、速やかに通気の良い場所で安静にすること。気分が回復しない場合は医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

- 直ちに石鹼を使用してよく洗い落とすこと。異常がある場合は医師の診断を受けること。

眼に入った場合

- 目を擦らず直ちに清浄な水で15分間以上注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易外せる場合は外して洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の手当てを受けること。

飲み込んだ場合

- 口をすすぎ、直ちに医師に連絡をすること。
- 吐き出させるとかえって揮発性液体が肺へ吸引される等の危険が増すため、吐き出させないこと。

5.火災時の措置

消火剤

- 粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂
- 初期火災には粉末、二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。
- 大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。

使ってはならない消火剤

- 冷却の目的で霧状水は用いてもよいが、消火に棒状水を用いてはならない。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具および緊急時措置

- 漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
- 着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

環境に対する注意事項	: 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。 大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。 漏出物を直接に河川や下水に流してはいけない。
除去方法	: 少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。 大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。 漏出したものをすくいとり、または掃き集めて紙袋またはドラム等に回収する。 回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。
二次災害防止法	: 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。 火花を発生しない安全な用具を使用する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 取扱いは換気のよい場所で行うこと。 発散した蒸気を吸い込まないようにすること。 屋外での取扱いは、できるだけ風上から作業すること。 眼、皮膚、衣類に付けないこと。 保護手袋及び保護眼鏡を着用すること。 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする事。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 熱、火花、裸火、高温のものから遠ざけること。ー禁煙 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 火気厳禁
局所排気・全体換気	: 取扱う場合は、屋外または全体換気の設備のある場所で取扱う。
安全取扱い注意事項	: 機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。 容器を転倒、落下させ、衝撃を与え、又は引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。
保管	
安全な保管条件	: 直射日光を避け、換気のよい場所で容器を密閉し保管すること。 施錠して保管すること。 熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。 酸化剤並びに酸化性の強い物質との保管は避ける。
容器包装材料	: 開栓した容器で再び保管する時は、密栓をよく確かめること。 他の容器に移し替えて保管しないこと。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定されていない
許容濃度	
日本産業衛生学会	: 設定されていない
ACGIH	: TWA 1,000 ppm【LPG(アルカンC1～C4として)】

(ルブ601, 株式会社コスモビューティー, 1458S18, 2019年1月25日)

設備対策 : 取り扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれなような設備とすること。

保護具

呼吸器の保護具 : 必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を使用する。
 手の保護具 : 耐油・耐溶剤手袋を使用する。
 眼の保護具 : 保護眼鏡を使用する。
 皮膚及び身体の保護具 : 必要に応じて保護衣を使用する。

9.物理的及び化学的性質

外観 : 無色 ~ 淡黄色透明液体
 臭い : わずかに特異臭
 pH(原液) : 測定できない
 融点・凝固点 : < -50 °C
 沸点、初留点と沸騰範囲 : 160 ~ 195 °C
 引火点(セタ密閉) : 56 °C
 自然発火温度 : 240 °C
 燃焼性 : 該当しない
 燃焼又は
 爆発範囲 下限、上限 : 1.0 % ~ 6.0 %
 蒸気圧 : 0.05
 蒸気密度 : > 1.00
 蒸発速度 : データなし
 比重(25 °C) : 0.763 g/cm³
 溶解性 : 水に不溶。
 n-オクタノール／水分配係数 : データなし
 分解温度 : 250 °C
 粘度(25 °C) : データなし
 その他のデータ : 使用温度範囲:-5 ~ 50 °C

10.安定性及び反応性

安定性 : 通常の条件では安定。
 危険有害反応可能性 : 強酸化剤との接触を避ける。
 避けるべき条件 : 現在のところ有用な情報なし。
 混触危険物質 : ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。
 危険有害な分解生成物 : 燃焼等による有害ガスの発生(不完全燃焼による一酸化炭素の発生)

11.有害性情報

急性毒性
 経口 : 情報なし
 経皮 : 情報なし
 皮膚腐食性/刺激性 : イソパラフィン系溶剤は国連分類の【区分3】に分類されているが、JIS分類に従い【分類できない】とした(国連分類では【区分3】)。
 眼に対する重篤な損傷性
 /眼刺激性 : 情報なし

(ルブ601, 株式会社コスモビューティー, 1458S18, 2019年1月25日)

呼吸器感作性	: 情報なし
又は皮膚感作性	
生殖細胞変異原性	: 情報なし
発がん性	: 情報なし
生殖毒性	: 情報なし
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 情報なし
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 情報なし
吸引性呼吸器有害性	: イソパラフィン系溶剤は【区分1】に分類されており、含有率が10%以上であることから【区分1】とした。

12.環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性(急性)	: 情報なし
水生環境有害性(長期間)	: 情報なし
オゾン層への有害性	: 情報なし
他の有害影響	: 情報なし

13.廃棄上の注意

残余廃棄物

内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

エアゾール缶を廃棄する場合は、中身を使い切ってから火気のない屋外で噴射音が消えるまでボタンを押し、ガスを完全に抜くこと。火中に投入すると爆発のおそれがあるので、絶対に焼却しないこと。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14.輸送上の注意

国際規制

国連分類	: クラス2:ガス類(区分2.1引火性)
国連番号	: UN1950
品名(国連輸送名)	: エアゾール(容積が1L以下のもの)
容器等級	: 該当しない

国内規制

陸上輸送	: 消防法、労働安全衛生法に定められた輸送方法に従う。
海上輸送	: 船舶安全法に定められた輸送方法に従う。
航空輸送	: エアゾール製品は、航空法では輸送できない。

輸送の特定の 安全対策及び条件	: 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 引火性液体なので「火気厳禁」
--------------------	---

緊急時応急措置指針番号	: 126
-------------	-------

15.適用法令

化学物質排出把握管理促進法 : 非該当

(平成21年10月1日改正)

労働安全衛生法

危険物 : 施行令別表第1危険物(引火性の物)(可燃性のガス)

有機溶剤中毒予防規則 : 非該当

名称等を表示すべき危険 : ブタン

物及び有害物

(平成30年7月1日施行)

名称等を通知すべき危険 : 政令番号482【ブタン】

物及び有害物

(平成30年7月1日施行)

毒物及び劇物取締法 : 非該当

(平成31年1月1日施行)

高圧ガス保安法 : 適用除外要件を満たしたエアゾール製品のため適用外

消防法 : 第4類第2石油類 非水溶性液体

船舶安全法 : 危険物〔品名:エアゾール、分類:高圧ガス、項目:引火性高圧ガス、等級:2.1〕〔危険物船舶運送及び貯蔵規則〕

航空法 : 危険物〔品名:エアゾール(引火性のもの)(毒物、腐食性物質又は毒性ガスを含まないもの)、分類:高圧ガス、区分:引火性ガス、分類番号または区分番号:2.1〕〔航空機による爆発物等の輸送基準等を定める告示〕

廃棄物処理法 : 特別管理産業廃棄物(廃油)

16.その他の情報

参考文献

原料メーカーSDS

独立行政法人 製品評価技術基盤機構「化学物質総合情報提供システム」データベース(CHRIP)

厚生労働省 職場のあんぜんサイト「GHS対応モデルSDS」

改訂情報

1999年4月27日(第1版) : 初版発行

2014年4月25日(第12版) : SDSへ改訂(JIS Z 7253 準拠)

2016年3月26日(第13版) : 住所変更および労働安全衛生法(平成28年6月1日)改正による改訂

2016年7月19日(第14版) : GHS分類区分見直しおよび労働安全衛生法表示物質、通知物質修正

2016年11月10日(第15版) : 原料メーカー情報の変更による「15.適用法令」修正

2017年6月12日(第16版) : 労働安全衛生法改正(平成29年3月1日施行)による改訂

2017年8月21日(第17版) : 名称変更(旧品名:クリンバー ルブ601)

2019年1月25日(第18版) : 労働安全衛生法改正(平成30年7月1日施行)および毒劇物取締法改正(平成31年1月1日施行)による改訂

記載内容の取扱い

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータの評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いいたします。また、記載事項は通常の取り扱いを対象としたものですので、特別な取り扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上でご使用ください。また、記載内容は新しい知見などにより予告なく改訂することがあります。

記載内容の問合せ先 : 株式会社コスモビューティー 研究部

電話番号 (06)6460-3120

FAX番号 (06)6460-0052
